

大学における地域子育て支援構想(2)

——「子育て応援キャラバン隊」の実践を通して——

清 葉子

Youko Kiyoshi

石橋 尚子

Naoko Ishibashi

1 問題の所在と目的

前回の調査1)から、地域子育て支援事業の内容と実態は一樣ではなく、それぞれの地域のニーズに合わせて発展し、今では地域になくはないものになってきていることが明らかになった。また、大学近隣の保育者養成大学でも、さまざまな形で地域子育て支援事業が行われるようになってきていることもわかった。大学で行っている子育て支援事業が他の子育て支援事業と大きく異なる点は、①子どもや保育にかかわる多分野の専門家が携わっていること、②保育者をめざす学生が参加していることの2点である。本学でもこのような特色をいかした子育て支援事業のあり方を考え、教員の専門性と学生の参加という点を生かした独創的な子育て支援のあり方を検討し、地域子育てネットワークを大切にした地域との連携のあり方を探っていきたいと考える。

また、調査を行ったそれぞれの施設からは、大学で子育て支援事業を行う際のヒントを多く得ることができた。それぞれの施設から得たヒントから本学部が子育て支援を実践していく際に、まず大学近隣の地域でどのような取組みがされているのかを把握しておくことが大切であると考えた。また、学内で行う際に、どのようなスペースと遊具等を設定し、どのようなプログラムを提案して行くのかも吟味していく必要がある。

そこで本研究では、次の2点について明らかにしたい。1つ目は、子育て支援の活動を相山女学園大学教育学部でも実践していくために、大学近隣地域である名東区・千種区の子育て支援事業の実態を調査することである。2つ目は、大学教員と学生とで「子育て応援キャラバン隊」を結成し、大学発信の子育て支援事業を計画・実践していくことである。実際に、学内および学外において子育て支援の実践を行い、大学発信の子育て支援について検討し、地域の現状とニーズに合った大学の発信する子育て支援のベースを探っていくこととする。

2 研究方法

(1) 大学近隣で行われている地域子育て支援事業についての調査

大学近隣地域の子育て支援事業の現状を把握するために、名東区・千種区を中心とした地域子育て支援を実施している主な施設や公的機関等（5施設・8か所）を見学し、実施者へのインタビュー調査を行う。調査を通して、地域の子育て支援事業のプログラム・支援内容等について明らかにし、大学近隣地域で行われている子育て支援の状況をまとめる。

(2) 「子育て応援キャラバン隊」の実践

大学の教員と保育者を目指す学生とで地域の親子を応援する「子育て応援キャラバン隊」を結成し、大学発信の子育て支援を計画・実践を行う。地域子育て支援の親子あそびの会等の実践を通して、大学の発信する子育て支援について検討する。

3 大学近隣の子育て支援についての調査結果と考察

見学・インタビュー調査を行った5施設・8か所について施設概要・支援内容等をまとめ、名東区・千種区で行われている子育て支援の現状を明らかにし、考察した。

(1) 子ども・子育て支援センター 758 キッズステーション

〈施設概要〉

- ・名古屋市中区栄三丁目18番地1号
ナディアパークビジネスセンタービル6階
- ・開設2007年9月 ・実施主体 名古屋市

〈活動・支援内容〉

758 キッズステーションは、市民公募でつけられ、名古屋を数字で表記すると758になるというユニークな名称である。(7)なんでも(5)こどもと(8)やってみようという趣旨で子どもと一緒に子育てが楽しめる拠点である。地域のネットワークづくりの拠点・企業連携の拠点・子育て情報の拠点として名古屋の子育て支援ネットワークの中核施設を担っている。また、親子の仲間づくりの場としてキッズパークを併設しており、10:30～6:30まで親子で自由に遊ぶことができるオープンスペースとなっている。他に、親子遊びやのイベントも開催され好評を得ている。

758 キッズステーションでは、このような親子支援だけではなく、子育て支援の支援者養成講座や専門相談員による子育て支援者の相談にも関わっている。

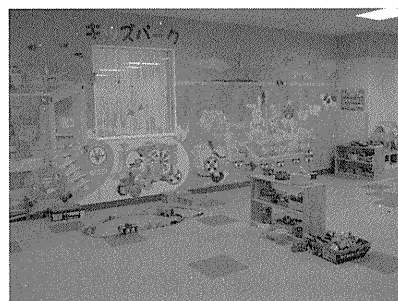


Fig 1: キッズパーク

(2) 保健所および民生子ども課

〈施設概要〉

名東区：名古屋市名東区上社二丁目 50 番地

千種区：名古屋市千種区覚王山通八丁目 37 番地

〈活動・支援内容〉

保健所は、乳幼児一般健康診査や乳幼児発達相談を行うとともに子育て総合相談窓口となっている。子育てについての相談をうけついたり、妊産婦から1歳未満の親子のための子育てサロンの実施も行っている。区内の子育てサークルや子育て支援など子育て情報を集約しており、窓口に来た人に紹介したり、友達づくりを担っている。保健所の一角には、子育て情報コーナーも設けられている。区役所民生子ども課でも、同様に子育て相談や子育て情報・子育てサークルの紹介を行っており、両者の連携は欠かせない。



Fig 2: 子育て情報コーナー (千種保健所)

(3) 児童館

〈施設概要〉

名東区：名古屋市名東区亀の井二丁目 201

千種区：名古屋市千種区新甫町 3-34

〈活動・支援内容〉

午前中からお昼過ぎまでの時間帯は、未就園児の親子の遊びの場・つどいの場としてにぎわっている。子育て支援の取り組みとしては、申し込み不要の自由参加クラブと年度初めに申し込みが必要な親子体操やわらべうたの会等を実施している。0・1歳児対象のものがどすぐに定員が埋まってしまうようだ。

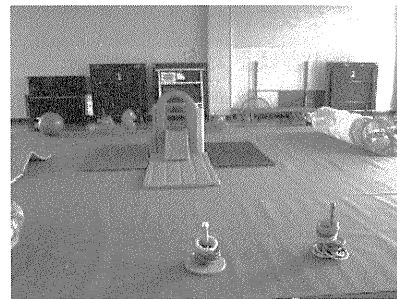


Fig 3: 屋内遊園実施日 (名東児童館)

(4) 保育所が行っている子育て支援センター

① 保育所子育て支援センター「めいとう」

〈施設概要〉

・名古屋市名東区高間町 135

・開設 2004 年 7 月 ・実施主体 名東保育園

〈活動・支援内容〉

メールでのメンバー登録制の赤ちゃんクラブ・子育てサークルを月1回開催している。それぞれのクラブ・サークルは誕生年度ごとに分かれている。場所は、保育園内と名東区内公共



Fig 4: 赤ちゃん運動会 (名東保育園)

施設で行っている。10 月には、名東スポーツセンターのアリーナを借り、それぞれのクラブやサークルが合同で「赤ちゃん運動会」を行った。参加者・ボランティアを合わせてのべ 600 名の参加があった。

名東保育園の子育て支援の特色は、参加者である母親も企画や準備などに積極的に参加しているところである。サークルメンバーのなかからサークルサポーターとよばれる代表がでて、保育園スタッフと一緒に月々の内容を決めたり、運動会などの行事で必要なものの準備も行い、作り上げていっている。

② 地域子育て支援事業「ほっと・しんぼ」

〈施設概要〉

・千種区新甫町 3-34

・開設 2007 年 6 月 ・実施主体 新甫保育園

〈活動・支援内容〉

新甫保育園は、名古屋市立の 0 歳～2 歳児クラスの乳児クラスのための保育園である。園庭の遊具は、高さの低い乳児の使いやすいサイズのものになっていた。



Fig 5: 乳児用遊具のある園庭(新甫保育園)

支援内容は、大きく分けてイベント・園庭開放・子育て相談になっている。イベントは、予約が必要であり一人月に 1 回の予約ができる。イベントの内容等は、園のスタッフ全員が持ち回りで分担している。

(5) なごやつどいの広場事業「もんもの木」

〈施設概要〉

・名古屋市千種区仲田二丁目 12-21

・開設 2006 年 7 月

・運営団体 NPO 法人名古屋コダーイセンター

〈活動・支援内容〉

2007 年度よりつどいの広場を開始した。もんもの木の特色は、2 点ある。1 点目は、運営団体がわらべうたや乳児保育について研究している団体である。これまでの実践で培ってきた



Fig 6: 施設の奥の一角にカフェがある室内

ものを子育て支援に取り入れている。2 点目は、施設の奥の一角に親子で利用できるカフェが併設されていることである。つどいの広場を始めるにあたって、カフェスペースをつくるということは欠かせなかったということで、母親に育児の合間にほっと一息を入れてほしいという願いを持っている。

室内は、空間の配置やおもちゃにも工夫がされている。手作りの家具で統一され、床も木でつくられている。ままごとコーナーに置かれているおもちゃは、手作りおもちゃや木製のおもちゃが中心であった。

名古屋市では、子どもが生まれるとさまざまな検診とともに、初妊婦・乳幼児の親子の交流の場を設ける、仲間づくりのための子育てサークルの紹介等乳幼児の親子のサポートを保健所が窓口となって担っている。それぞれの地域で行われている主な子育て支援は、①親同士による子育てサークル②NPOによる子育て支援の提供③小学校区における主任児童委員と民生委員による子育てサロン④障害のある子どもへの支援⑤保育所で実施されている地域子育て支援センター⑥児童館での、自由参加・要申し込みの乳幼児対象クラブ⑦なごやつどいの広場助成事業（主に0歳から3歳までの親子のためにNPO法人などの地域の子育て支援団体が、子育て中の親子のつどいの場の提供・子育てに関する相談、援助の実施・子育てや子育て支援に関する講習会などの活動を行っている場所であり、名古屋市がその事業経費の一部を補助している助成事業）⑧保育園・幼稚園における園庭開放や親子参加の会の8つである。

その他に、保健所・民生子ども課・社会福祉協議会などが中心となって地域の子育てネットワークをつくり、それぞれの機関が連携して子育て支援のイベントを開催したり、相互に交流しながら活動をすすめている。子育てマップは、保育園・幼稚園情報、公園紹介、子育て支援サービスの紹介などを中心に編集されている。名東区は、育児サークル「みんとん」が編集していることが特色であり、千種区は、田代保育園や学童保育のメンバーが中心となって編集している。名東区・千種区の子育て支援の現状はTable 1の通りである。

また、それぞれの地域の特徴としては、次の点があげられる。名東区の地域の特徴は、転入・出が多くいわゆる転勤族が多い地域である。転勤してきて友達がほしいと思っている人が多いということもあり、友達づくりの第一歩としての母親サークルが盛んである。しかし、転勤により母親サークルのメンバーの入れ替わりが度々あり、持続困難になる場合もあるようである。保健所が積極的に転入してきた母親の友達作りもサポートしている。

千種区の地域の特徴は、区内各所で主任児童委員と民生委員で行うサロンが盛んである。18小学校学区すべてで子育てサロンが行われている。自分の居住している地域に親子で集える場所がある。子育てネットワークちくさによる区内移動型子育て支

Table 1：名東区・千種区の子育て支援の現状

	子育てサークル・支援団体	子育てサロン	障害のある子どもへの支援	保育所子育て支援センター	児童館	つどいの広場事業	子育てネットワーク	子育てマップ
名東区	24 団体	8 カ所	めいとう kids	4 カ所	1 カ所	1 カ所	子育て支援ネットワーク 5-10	育児サークル「みんとん」編集
千種区	15 団体	19カ所	コアラの会	2 カ所	1 カ所	2 カ所	子育てネットワークちくさ	千種区子育てマップをつくる会編集

援「ミニ子育て広場」の活動も年に4回実施されており、地域の連携も図られている。

今回の調査結果から、大学と地域との連携を考えてみると、地域で活動している母親サークルや子育てサロンへのキャラバン隊の出張が考えられる。内容としては、親子遊びや工作、絵本などの読み聞かせなどである。要請があれば学生の託児等のボランティア参加も可能であろう。

また、地域で活躍する子育て支援団体や支援者サポートと子育て支援の横のつながりをつくっていくことができるような、支援者や母親サークルの交流会のような活動の企画も意義がある。知的資源・専門的知識の提供や、大学という場の提供も可能であろう。子育て支援者の専門性の向上のための講座など、親子支援だけにとどまらず、支援者のサポートも視野にいれた子育て支援のあり方を大学として提案していきたい。今後も大学近隣地域に根付いている子育てネットワークを大切にした子育て支援へのかかわり方と大学が積極的に発信していくものについて検討を加えていきたい。

4 「子育て応援キャラバン隊」実践報告

本学でも、大学教員・教育学部学生の有志を募り「子育て応援キャラバン隊」を結成し、試験的に地域子育て支援事業を計画・実践した。「子育て応援キャラバン隊」の柱は、次の3つである。

①大学で子育て支援の取り組みをする。

大学教員と保育者・教師を目指す学生が一緒になって、親子遊びや工作などの内容の企画を立てて、大学内で親子のつどいの場を提供する。

②地域で行われている子育て支援を応援する。

地域で活動している母親サークルや子育て支援団体から依頼をうけ、日時があれば地域の子育て支援の場へ出張する。

③地域で活躍している子育て支援者を応援する。

地域で子育て支援を支えている子育て支援者の方へ、親子遊び・手遊び・読み聞かせなどの紹介や子どもの発達などについて大学教員が講座を実施する。支援者の方のレベルアップを手伝う。

今回「子育て応援キャラバン隊」は、①・②の大学内または地域の子育て支援活動の場へ出張し、親子遊び・パネルシアター等の乳幼児の親子が楽しめる活動の提供を中心に実践を行った。実践の内訳は、次の通りである。大学内において1歳頃（歩行が安定した時期）から未就園の親子対象企画を5回、出張企画が3回を行った。これらの活動の詳細は、以下の通りである。

(1) 出張企画：名東区子育てサークル「前山エンジェル」

〈実施概要〉

・6月3日（火）10：30～11：30

- ・場所 名古屋市名東区 前山公民館
 - ・参加者数 前山エンジェルメンバー 親子 13 組
- 〈実践内容〉

名東保健所主催のサークル代表交流会にて、筆者が親子遊び講師を行えるということを知り、サークルメンバーより出張依頼があった。1 時間程度の内容で、親子遊び・絵本の読み聞かせ・工作を行った。最後に、参加者全員で意見交流や簡単な育児に関する相談の時間もあった。

(2) 学内企画：水あそび・しゃぼん玉あそび

〈実施概要〉

- ・ 9 月 5 日（金）10：00～11：30
- ・参加者数 親子 6 組・学生参加者数 8 名

〈実践内容〉

当初、水あそびを行う予定であったが、天候が思わしくなかったため、魚釣りコーナーとしゃぼん玉コーナーを作り、親子で楽しんでもらった。また、学生によるパネルシアターの上演も行った。最後に、くるくるレイン棒を使っの「しゃぼん玉」の歌を参加者全員でうたった。



Fig 7：しゃぼん玉あそび

(3) 学内企画：作ってあそぼう「くるくるレイン棒」

〈実施概要〉

- ・ 9 月 10 日（水）10：00～11：30
 - ・参加者数 親子 8 組・学生参加者数 6 名
- 〈実践内容〉

前回の企画の際に好評であった、「くるくるレイン棒」を作ってみたいという要望があり、細く切ったミラーテープを球状に貼り、竹ひごにつけたくるくるレイン棒をつくることにした。くるくるレイン棒は、棒をもってくるくと回すとしゃぼん玉がとんでいるように見える棒である。母親が作り、出来上がった棒で「しゃぼん玉」のうたを歌ったり、回る様子を楽しんだ。



Fig 8：「くるくるレイン棒」製作

(4) 出張企画：「親子であそぼう！」

〈実施概要〉

- ・ 9 月 19 日（金）10：30～11：30
- ・場所 名古屋市中区錦三丁目 25 番 20 号

SMBC パーク栄

・参加者数 親子 26 組・学生参加者数 10 名
〈実践内容〉

「親子で、身体を動かして遊んだり、みんなで一緒に絵本を見たり、歌ったり……親子で楽しいひと時を過ごしましょう。また、子育てについてのご相談にもお応えします。」という趣旨で本学が企画し、三井住友銀行が新聞折り込みチラシなどで応募者を募った。定員は、3 日ほどで埋まってしまった。

「ミニ運動会」をテーマに動物のお面をかぶり、グループに分かれてトンネルくぐりや玉入れ等の運動遊びを楽しんだ。円形の布を使った遊びは、布が揺れるたびに歓声が上がっていた。この企画では、親子遊びの最後に教育学部教員（石橋）による子どもの発達についての子育てミニ講座も行った。講座終了後には、参加者より発達相談も数件あった。

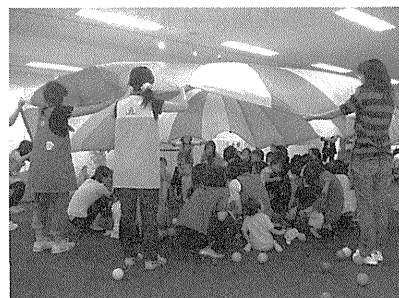


Fig 9：バルーンであそぼう

(5) 学内企画：梶大祭「ちびっこ縁日」

〈実施概要〉

・10月19日（日）10：00～15：00
・参加者数 112 名・学生参加者数 32 名

〈実践内容〉

この企画は、本学の大学祭「梶大祭」に参加した。企画である。学生の有志が中心となって行った企画である。室内に、魚つり・ボーリング・輪投げ・フリースローの4コーナーをつくり、参加者に体験してもらった。年齢や子どもの姿に合わせてルールややり方を工夫して取り組んでいた。



Fig 10：パネルシアター上演

お話し会の時間を3回もち、学生が絵本やパネルシアターなどを上演した。絵本の選書やお話し会の導入・展開なども学生のグループで考えた。毎回親子15組前後の参加者があり、学生にとって大変励みになったようである。お話し会の後は、参加者の反応が様々でとても良い経験になったと話していた。

(6) 学内企画：どんぐりマラカスを作ってあそぼう

〈実施概要〉

・11月6日（木）10：00～11：30
・参加者数 親子 17 組・学生参加者数 18 名

〈実践内容〉

大学構内にあるどんぐりの木の下で、マラカスに入れるどんぐりを親子で拾った。拾ったどんぐりを空いたガチャガチャケースに入れ、シールを貼り、マラカスをつくってもらった。作ったマラカスを使って、学生の歌や踊りに合わせて音を鳴らして遊んだ。

学生は、秋の曲を中心に5～6曲選曲し、4つのグループに分かれて振り付けや歌い方などを相談し、練習した。学生の歌に合わせて、子どもたちは身体を揺らして踊ったり、一緒に歌を口ずさんだりしていた。



Fig 11：学生によるミニコンサート

(7) 出張企画：親子でたのしむジングルベル

〈実施概要〉

- ・12月17日（水）13：30～14：00
- ・名古屋市中区栄三丁目18番地1号

ナディアパークビジネスセンタービル6階

- ・参加者数 親子約20組・学生参加者数 19名

〈実践内容〉

758 キッズステーションにて、クリスマスミニコンサートを出張キャラバン隊として行った。あわてんぼうのサンタクロースやジングルベルなどクリスマスに関する曲を途中、手遊びや絵本の読みきかせを交え、全7曲を学生が披露した。最後は、親子で紐に鈴をつけたオリジナル楽器を用いてジングルベルの合奏を参加者全員で行った。演奏終了後は、クリスマスオーナメントを参加者に作ってもらいお土産として持ち帰ってもらった。



Fig 「親子でたのしむジングルベル」

参加者からは、「子どもがリズムに合わせて体を揺らしながら聞いて楽しそうだった。」「演奏がきれいだった。」と好評であった。学生も、初めての出張キャラバン隊で緊張していたが、演奏後は自分たちにもできたと自信がついたようであった。

(8) 学内企画：クリスマス会

〈実施概要〉

- ・12月18日（木）10：00～11：30
 - ・参加者数 親子38組・学生参加者数 20名
- 〈実践内容〉

クリスマスの雰囲気を楽しんでもらうことを目的とした。クリスマスツリーに見立てた三角のパーティーハットを親子で作製してもらい、



Fig 13: クリスマス会(ミニコンサート)

その後、メロディーベルによるクリスマスソングのミニコンサートを行った。コンサートの合間に学生がクリスマスバージョンにアレンジした手遊びや絵本の読み聞かせも行った。最後は、紐に鈴をつけたオリジナル楽器を用いて参加者全員でジングルベルを合奏し、あわてんぼうのサンタクロースを合唱した。親子で手をたたいてリズムをとったり、クリスマスソングを口ずさんだりしてミニコンサートは盛り上がった。

今回は、参加者とスタッフ合わせて約 100 名という大人数になってしまったため、今後は参加受け入れ可能人数等の検討も必要であると感じられた。

(9) 活動のまとめと参加者へのアンケート調査結果から

今回、試験的に行った学内「子育て応援キャラバン隊」企画は、本学 HP で企画を告知するとともに、相山女学園大学附属幼稚園・名東保育園・名東児童館等にチラシを配布した。希望者は、メールによる事前申し込み制とした。当日は、基本的に次のようなタイムスケジュールで実践を行った。室内に入室したら、子どもが室内の遊具（ボールプール・トンネル・ブロック・汽車・ままごと等）や学生と交流するうちに場に慣れていく時間をもった。場になれば、母親同士も交流を図れるようになったところで、みんなでの活動の時間を始めた。子どもたちが場になれた段階で活動を始めることで、子どもたちも活動に興味を持ち、母親から離れて学生と一緒に活動する姿がみられた。みんなでの活動が終わった時点で会の終了を告げるが、まだ部屋で遊んでいた子どもも多いために室内を引き続き開放し、自由解散とした。

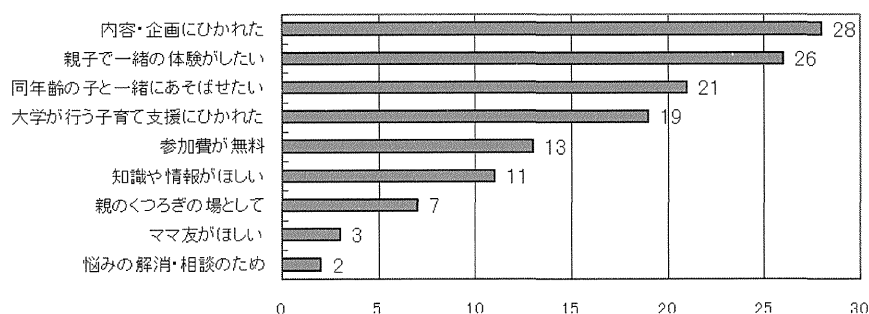
学内企画は、9 月は告知期間が短かったこともあり、10 名に満たない人数であったが、11 月 12 月は、SMBC パーク栄での参加者へのハガキでの案内や前回までの参加者のリピーターもあり、多くの人数が集まった。クリスマス企画においては、開催 1 か月前に 45 組を超えてしまい、応募を締め切ることとなった。名東保育園や名東児童館に配布したチラシを見て申し込んだり、参加者が別の友達を誘っての口コミでの参加も多くなっていった。学外企画は、母親サークルからの依頼や子育て支援団体からの依頼であった。母親サークルでは、サークルメンバーが持ち回りで企画を担当しているところが多いため、今後も地域で子育てするサークルへの出張キャラバン隊も可能であろう。今回行った、758 キッズステーションへの出張キャラバン隊もような活動も積極的に行っていき、地域との連携も視野に入れた活動を行っていきたい。

また、12 月 18 日に実施した参加者へのアンケート（有効回答数 36 枚）からは、次のような結果が得られた。参加者の多くが名東区（17 人、47%）・千種区（9 人、25%）に居住し、企画に参加したきっかけは、大学からの案内やチラシを見て参加したり（19 人、53%）、友達に誘われて参加した（16 人、44%）であった。

企画へ参加した動機（複数回答）は、Table 2 の通りである。参加者は、乳幼児の親子が楽しめる企画と集い、遊ぶ場を求めているということが明らかになった。

「楽しかったです」「また参加したいです」と声をかけて帰る方も多く、毎回好評であった。アンケートの自由記述欄からは、「大学内で行っているので安心して参加で

Table 2：参加の動機

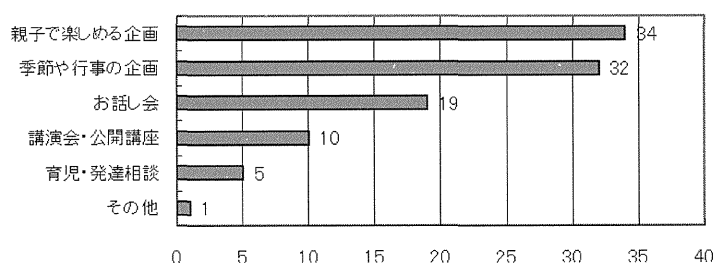


きる。」「保育者を目指す学生さんのためになれてうれしい。」といった感想を多く読み取ることができ、参加者全員（100%）がまた参加したいと回答した。

次に、参加した学生はアンケートの中で「普段あまり接することができない乳幼児とふれあえてよかった」「お母さんと話すことができてうれしかった」「子育て支援の場を見て、体験することができてよかった」といった感想をのべていた。参加者全員（100%）がまた参加してみたいと回答し、学生の満足度も非常に高かった。参加者からも、学生が参加していることに対して100%の参加者から好感が持てると回答を得た。

このように、Table 2 参加の動機からも読み取れるように大学が発信する子育て支援への関心は高く、大学が企画する子育て支援に魅力を感じると参加者全員（100%）が回答した。学生が参加していることへの理解もえられている。今後大学で企画してほしい内容を聞いた（複数回答）ところ、Table 3 のような回答を得られた。

Table 3：今後大学で企画してほしい内容



これらの結果も参考にし、大学が発信する子育て支援の特色を生かして、今後も親子が集えるプログラムの検討と場の提供を学生と一緒に作っていききたい。また、学生とともに地域へ活動を広げて、地域での取り組みを一緒に行うということは、学生にとって生の子育て支援を知る有意義な機会である。今後は、親子対象の企画だけではなく、子育て支援者への支援についても方法・内容を検討し様々な形で学外団体との連携の可能性を探っていくことを課題にしたい。

5 今後の課題

今回の調査から、大学近隣の名東区と千種区の子育て環境や子育て支援の現状をとらえることができた。前回の調査からも得られたように、子育て支援の取り組みは、それぞれの地域に応じたものになっており、名東区・千種区の地域の特徴やニーズが明らかになった。名東区は、転入出が多く、友達づくりの場である母親サークルの活動が活発であった。千種区は、地域の主任児童委員や民生委員が行う子育てサロンが各小学校区で実施されており、地域での子育て支援が根付いていた。今後は、大学として地域の子育て環境へどのような関わり方があるのかについて検討していきたい。

また、「子育て応援キャラバン隊」の実践を通して、参加者の大学が発信する子育て支援への関心やニーズが非常に高いことがわかった。はじめにも述べたが、大学で行っている子育て支援事業が他の子育て支援事業と大きく異なる点は、①子どもや保育にかかわる多分野の専門家が携わっていること、②保育者をめざす学生が参加していることの2点である。今回の実践の中で行ったアンケートからもこれらのことを読みとることができた。子育て支援が発展し、根付いてきている現在においても、参加者はよりよい場を求め続けているのである。「子育て応援キャラバン隊」の実践には、学生も積極的にボランティアで参加しており、子どもだけでなく、実習でもなかなか関わるができない母親との交流という貴重な経験から、多くのことを学んだようである。

「子育て応援キャラバン隊」の実践は、乳幼児の親子の支援とともに、学生の子育て支援の現状について知ることと保育者としての資質と力量向上をねらってきた。学生を積極的に参加させていく中で、学生自身の保育者としての資質向上や乳幼児の親子を支援していくという意識を高めていくことにもつながると考える。このことは、次世代育成の一環として、学生が大学を卒業後、保育現場や将来母親になった時に子育て支援や母親サークルの立ち上げなどに積極的に参与していく力をつけていくことにもつながっていくであろう。

これからも引き続き、「子育て応援キャラバン隊」の実践を継続していく中で、地域子育てネットワークを大切にしたい地域との連携の方向性や支援内容・実施方法について検討を加えていきたい。そして今後は、親子支援だけではなく、子育て支援の支援者への支援内容・方法や支援者の交流等も視野に入れて、保育者養成大学がもつ特徴を生かした独創的な子育て支援を構想していきたい。

■注

- 1) 清葉子、石橋尚子「大学における地域子育て支援構想(1)」 椋山女学園大学教育学部紀要 Vol. 1、2008.3

■入手資料

- ・子ども・子育て支援センター 758 キッズステーション：「施設案内」「情報誌 758 キッズな★び」
- ・名古屋市名東区保健所および名東区民生子ども課：「ようこそ名東区へ」「めいとう子育て応援タイムズ」
- ・名古屋市千種区保健所および名東区民生子ども課：「千種区子育て支援情報がいど」「子育てネットワークちくさ案内」
- ・名古屋市名東区、千種区の児童館：「児童館だより」「イベントカレンダー」「乳幼児むけ企画案内」
- ・名東保育園 保育所子育て支援センター「めいとう」：「支援センター案内」「赤ちゃんくらぶ・子育てサークル案内」「子育てサークルおたより」
- ・新甫保育園 地域子育て支援事業「ほっと・しんぼ」：「支援センター案内」「ほっと・しんぼ通信」
- ・もんもの木：「施設案内」「イベントカレンダー」
- ・名東区子育てマップ：2008 年 8 月 改訂版
- ・千種区子育てマップ：第 3 号 2007 年度版